

今後の取組（案）

項目	視点	具体的な取組(案)・方向性など
支援制度	○支援メニュー(活動助成)の見直し【3章】 ※「手厚い支援→自立できる状態を目指すべき」との意見あり	・デジタルツールに対する支援の検討【2章】 (電子アンケートフォーム、会議の時間・場所の柔軟性など) ・支援期間や支援方法等の検証
	○コーディネーター支援【3章】	・多様化したまちづくり活動に対応出来る幅広い専門性を持つコーディネーターの確保【3章】 ・コーディネーターの派遣体制【3章】 (二人体制、専門性の組み合わせ等) ・若手コーディネーターにとっての魅力(機会、実績PR、報酬等)を確認していく必要あり
デザイン賞の改善	○デザイン賞、受賞団体の認知度の向上【5章】	・認知度向上(受賞団体の活動の後押し) ・デザイン賞受賞団体等との意見交換【5章】 ・条例支援以外のまちづくり活動を広報することで、横浜市内のまちづくりのノウハウとしていく【5章】 (オープンデータ化、他活動団体とのつながりも期待)
まちづくり活動の発信・PR	○広報手法の改善等	・まちづくりの楽しさのプロモーション【5章】 ・新たにHPを作成。ビジュアルの刷新や検索性等を追加し、市内のまちづくり活動のノウハウを発信 →新規でまちづくり活動を行う人たちにとっての参考事例に →他団体との新たなつながりを生み出すきっかけに ・コーディネーターの検索性の向上 ・その他、各種広報媒体の活用【5章】
まちづくり活動の受付	○まちづくり相談の仕組み【1, 2, 3章】 ※「まちづくりへの相談のハードルを下げるべき」との意見あり	・まちづくり相談窓口の周知や相談体制【1, 2章】 ・区の相談窓口(まちルコ)の名称検討【1章】 ・地福計画等との連携、地域支援チームとの連携 ・様々な部署との横断的な調整の仕組み
新たな支援の取組	○現在の支援制度では対象としていない取組に対する支援の検討 ○地域の魅力づくりなどの、より自由で多様なまちづくり活動に対する促進策の検討【1章】 ○子ども・若者世代がまちづくりに参画してもらう戦略も考えるべき【1, 2, 4章】	・現状でどのような取組があるか調査→ヒアリング ・(案)「まちづくり認証・認定制度」 ・他局の支援(助成)の整理

- ・地域まちづくりの定義
- ・地域まちづくりの目的・役割
- ・先の時代に生じる課題も見据えた制度の設計・運用
- ・プロジェクト支援のあるべき姿を議論し、その中でまち普請事業が担う役割を整理